

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター北遠中央
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 8年 2月 17日（火） 14時00分 ～ 15時30分
2 開催場所	山香ふれあいセンター
3 参加者	17名（委員7名、事務局3名、関係機関7名）
4 協議内容	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶 浜松市高齢者福祉課 令和8年度の新たな事業が議会にかけられている。 ① 高齢者の緊急通報システム事業 →携帯電話の電波を使ったシステム ② 特別養護老人ホーム →大規模修繕の際の補助金体制構築 ③ 補聴器 →加齢に伴う補聴器購入の補助 *使用後アンケート回答必要</p> <p>3 「いどばたサミット」について(振り返り) 会議資料 P1～参照 →11月21日(金) 参加者31名 テーマ「こうやって、私たちの応援団を増やせるかも！」 ・(水窪) ローカルコープ→「まかしよ」まかせろという意味 地域の課題をみんなが、自分事化することが大切であると感じている。 ・(水窪) シニアクラブのメイン事業が、輪投げとグランドゴルフであるが、それを中学生との交流の機会へとつなげて行きたい。</p> <p>4 地区部会の取り組みについて 会議資料 別紙参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(佐久間) かるたを使いながら、「これってあるよね」という話がとても出しやすい雰囲気ができた。金融機関や新聞屋の方が参加して、「いまこんな出来事があったなどの事例を知ることで、他のメンバーがこんなことがあるらしいから注意して」との啓発、次につながっていくと感じた。 ・(佐久間) 参加したメンバーが、参加していないメンバーへの声掛けが大切だと感じた。 ・(佐久間) 顔を合わせながら話ができると、聞きにくいことも聞けるようになると感じた。登録団体で、個人情報でどこに情報をつなげていいのかわかり不安に感じていたが、つなげ方を知ることができたとの話も合った。 →かるたは、どんな時に使われるのか。どこで作られているのか。 焼津市が作成「認知症よくわかるた」公募で作成をしたとのこと。 今後、地域の中で活用して頂ければと感じる。 だ・わ・い・ね→佐久間地区でのオリジナルを作成。 →天竜区バージョンがあってもいいのではないかと。 →来年度、北遠中央バージョンを作成していく。 ・(水窪) たくさんの人に来てほしいが、「返事はしてくれるが」実際来てくれないという課題を感じている。会自体の内容が難しく感じているのかもしれない。 ・(水窪) 連絡会で実施した「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所 認証事業」に新規登録につながったお店があった。これをきっかけに町内の他のお店も登録につながってくれればと感じている。 ・(龍山) 来場者が出店者として参加できるよう「フリーマーケット」を実施したらどうかという意見もあり、次年度につなげて行きたい。

5 情報提供

浜松市社協天竜地区センター船越 CSW より、地域の取り組みの情報提供

- ① 佐久間町浦川 野菜市の中で「買い物に来るのは、女性ばかり、男性が集まる場所があったらいいな」から始まるかもしれない活動。
→「女性は、集まる機会があるが、男性の方が集まる場所がない」との住民の声から地域の方、山里いきいき応援隊、包括支援センター、市社協で取り組みについて動き始めている。
- ② 春野町 まほろば文庫で「利用されない開放スペースを復活させるには」
→「健康講座、お祭りイベントを実施したらどうか、花札」などいろいろなアイデアがある中で、「健康マーじゃん体験会」の実施。
男性も、女性も一緒になって楽しみ、人の行き来がある。
(水窪)ひだまりには、なかなか人が来ない。地域の中に歩いている人もいない。
- ③ 龍山町 たつやマルシェにて「スマホ相談コーナー」の実施
→スマホ相談をしたくて来場される方も居た。ついでで聞きやすいという意見もあった。「行ってよかったよ」という声があると、その声を聞いた人が「次はいつてみようかな」という参加者につながっている。
浜松市の中山間地域補助金を活用して実施している。
- ④ さくまの里で「買い物企画」を実施。(さくまの里より情報提供)
→平沢、中部地区の住民の方へ「ぽかぽか広場」を実施。気軽に足を運んでもらうきっかけづくりを行っている。地域交流スペースの開放。

(委員)

- ・そもそも「健康マーじゃん」って何ですか？
→「のまない、すわない、かけない」をルールに通常の麻雀を行っている。
- ・ゲームセンター的に、オセロや囲碁、将棋など、大人も子どもも集まれる場所があるといい。
- ・ノーサー踊りを復活させたら普段出てこない人たちが、「懐かしいから出てきた」という声があった。「昔やった事」は、懐かしいから出てくるというつながりがある。
- ・浦川の「野菜市」では、買い物目的だけで終わってしまっているが、本当はせっかく来たのだから交流してほしいという思いがある。座ってゆっくりとするスペースがあってもなかなかゆっくりしていかない。
→長い時間過ごせる空間を作っていければと思う。
- ・「さくマルシェ」では、10:00~12:00までの時間開催しているが、参加者の滞在時間は長い。何か、景品などがあれば残るが難しい。
- ・生活支援体制づくり協議体の活動の一環として、そういう地域の高齢者の交流スペースへの応援事業補助金制度みたいなものがあるといい。

6 閉会

5 今後の見通し

必要な対応

来年度、3地区合同で地域の見守りや認知症等をテーマにした「カルタ」を作成することとなった。本取り組みおよび成果物を通じて、各地域において認知症や地域の見守りについて考えるきっかけを創出していく。あわせて、地区を越えて協働することで、互いの地域への理解と関心を深める機会とする。

また、同カルタの作成にあたり、どういった機会に使うのか、どういった内容を盛り込んでいくのか等、各地区部会からも意見を募り「ただ作っただけ」にならないように意識していく。